



創立1880年

〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL <http://tokyo.ymca.or.jp>
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 菅谷 淳

東京YMCA

2024

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

東京YMCA 国際協力一斉街頭募金

バングラデシュの子どもたちの教育支援や、アジアの子どもたちの支援を目的とした国際協力募金活動です。一緒に活動して下さる方を募集します。

2024年11月2日(土) 12~16時
JR新宿駅周辺にて(小雨決行)

※短時間の参加も歓迎



お申込みは
こちら



街頭募金の
詳細はこちら



共に未来をつくる ための募金

皆さんが求める将来の世界は、どのような姿でしょうか。

YMCAは世界120の国と地域で、キリスト教の「愛と奉仕の精神」に基づき、公正で平和な世界の実現を目指して活動しています。

その活動の一つが募金です。国際協力募金は、すべての人が平和に安心して生き生きと暮らせる社会の実現や、そのための人材育成を目的として日常的に行っています。また、自然災害や紛争などの緊急時には、人々の命と生活を守るための緊急支援募金も行います。それらの募金は必要とするYMCAに送られ、現地の状況に応じて活用されます。国を越えて連携し、困難な状況にある仲間たちを支援し、課題解決に向けて共に取り組むのがYMCAの国際協力の特徴です。

最近の募金活用事例より世界のYMCAが協力して進める国際事業をご理解いただき、一人でも多くの方にご支援、ご参加いただければ幸いです。

国際協力募金 (バングラデシュYMCA支援)

東京YMCAは30年以上にわたり、パートナーシップを結ぶバングラデシュYMCAのプロジェクトを支援しています。

◆NFPEスクール支援

【NFPE(=Non Formal Primary Education) スクールとは】

貧困などで学校に通えない子どもたちに、初等教育と道徳・宗教・文化教育を行う3年間の非公式の学校で、6歳前後の生徒が7校で約220人通っている。教師は女性1人。毎月の保護者会で教育の重要性を話し合うなど、親の「子どもを学校に通わせる」意識も高める。卒業生の中には、公立学校に転入して勉強を続け、大学に進学する人もいる。

東京YMCAは7校の運営費用を全面的に支援している。



NFPEスクールの授業の様子

【YMCAから配布される教育資材】

教科書、鉛筆、ペン、消しゴム、ノート、制服

【教科(主な学習内容)】

- ベンガル語(単語や詩の暗記、日記など)
- 初等算数(簡単な足し算と引き算、お金など)
- 英語(単語、発音、歌、書き取りなど)
- 初等科学(健康管理、人間の生命、自然資源など)
- 初等社会科学(国、食物や水の必要性、交通ルールなど)
- アート(家、木、村などのスケッチ、色の識別など)



マウイ・ファミリーYMCAの被災者支援活動

- ・シャワー、インターネット、安全な空間やサポートプログラムを無料で提供
- ・チャイルドケア専門の団体と連携し、子どもたちの教育と安心安全な保育環境を提供
- ・継続的な復興支援のためのプログラムスペースとして「西マウイYMCAリソースセンター」の開設を準備中。2024年中のオープンを目指す



ホノルルを訪れた際、TYIS生徒会からの支援募金をホノルルYMCAの総主事に託す松本数美国際・総合教育事業統括

緊急支援募金 (ハワイ・マウイ島山火事)

2023年8月にハワイ・マウイ島で大規模な山火事が発生。被災者支援活動を展開するマウイ・ファミリーYMCAに送金しました。

東京YMCAからの送金額597,890円(2024年2月)

※他、東京YMCAインターナショナルスクール生徒会より420ドル

赤△三角

「この保育園を卒業した娘が、小学校が楽しいと言っています。」
弟たちが在園中のお父さんが教えてくれました。お父

園長 矢野久美

さんの話は続きます。「この保育園で思う存分やりたいことをやらせてもらったおかげで、今、小学校でのプログラムの授業を楽しんでいるんだと思います。全部が新しいから。だから、ここでの保育が本当に良かったんだと思っています。」その言葉の一言一言が、本当に嬉しい贈り物であり、新しい発見でした。

▼英語や勉強など、小学校の「練習」を求めてしまいがちな幼児期ですが、「今」を100%で生きている子どもたちは、やりたいことをとことんやってこそ瞳が輝き続けるのだと、お父さんの言葉が立証してくれた気がしました。

▼初めてYMCAの保育に触れた時、YMCAが大切にしている「今のときを飲む」という言葉が心にスッと染み渡ったのを、今でもはっきり覚えています。あれから20年、YMCAの中で、たくさんのお子もたちや保護者の方々、そしてスタッフに育てていただき現在の私があります。今では、この「今のときを飲む」という言葉は私の人生の指針となっています。(オリジナル保育園)

身近なことから ～Y M C A X S D G S～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



私たちは現在、平和、飢餓、環境や気候変動などの深刻な課題に直面しており、今すぐに行動を起こさなければ子どもたちに豊かで可能性のある未来を残せなくなる危機にあります。

東京YMCAは、「誰一人取り残さない」持続可能で包摂的な社会の実現を目指すSDGs（17の開発目標）の達成に向けて、小さな取り組みから始め、活動を広げています。

今回は、東京YMCA国際ホテル専門学校 校長 小畑貴裕

学生主体のSDGs推進

東京YMCA国際ホテル専門学校

校長 小畑貴裕

2021年の春。コロナウイルスの影響で都内はロックダウン状態となり、ホテル学校の授業も、専門学校のカリキュラム上重要な位置づけとなるインターンシップも実施できない状況に追い込まれました。何か補填するための特別講義を検討する中で、スタッフから「SDGs」について学ぶ機会を学生たちに設けてはどうかという提案がありました。

そこで、知人から中小企業にESG経営（※1）を啓発しているコンサルタントを紹介いただき、「SDGs理解講座」開講の運びとなりました。今はスタッフが主導して、学生たちと一緒に考える講義形式となっています。ホテルの専門学校らしく、どこのホテルがどのような取り組みをしているかを調べることから始まり、各々の学生が日常生活の中で、そして学校生活の中で、サステナブルな「環境」や「社会」について考える機会となっています。

今年で4年目を迎える「SDGs理解講座」ですが、開始以来、学内でいくつかの変化が起きました。

1. マイボトル持参の推奨
2. 専用ウォーターサーバーの設置
3. サステナブルペットボトルを使用した自動販売機の導入
4. 性別に関わらないパンツスーツの着用
5. 寄付型自動販売機の導入（収益は東京YMCA国際協力募金へ）

学生の発案により目に見える形でこれらの変化が実現し、学校運営をする立場としても嬉しい限りです。また、SDGsの推進により、学生の意識や行動に目に見えない変化も見られます。一例として、学生が視覚障がい者を高田馬場駅から目的地まで案内し、後で学校に感謝の電話をいただいたことがありました。「平等で暮らしやすい社会に」という観点や、「自分ができることをやっていくことで人にも優しくなれる」という行動力は、ホテルの仕事にも通じることです。

国際ホテル専門学校は、学生・講師・スタッフが協力して、今後もSDGsの達成に向けた活動を進めていきます。

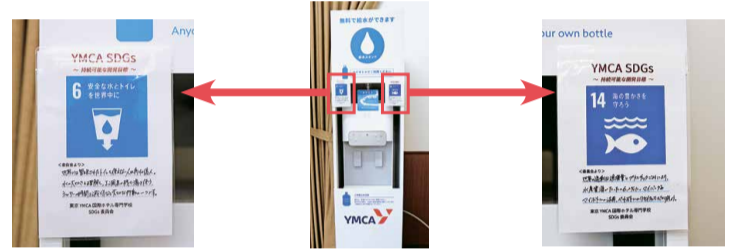
※1 ESG経営とは、「Environment（環境）」「Social（社会）」「Governance（企業統治）」を考慮した経営手法。「社会的な課題に対して企業がどのように対応するか」を重視する。



「SDGs理解講座」の教材として使用している「デライト式SDGs・ESG経営カード」



SDGs委員会による校内掲示物



マイボトルに給水するために設置された専用ウォーターサーバー



東京YMCA国際協力募金に寄付される自動販売機



校内のさまざまな場所に貼られ、学生の気づきを促すSDGsカード



SDGs理解講座の中で、ホテルのSDGsに関する取り組みを調べ、報告書を作成して校内の廊下に貼り出している



お茶を飲みながら、近隣地域の情報や外国のことで話が弾む

「誰もががらっと」に、北海道、沖縄、フィ...

「Talooカフェ」の思い... 8月のある日、私が20年...

「Talooカフェ」の思い... 立ち寄れる「居場所」として、このスペースを活用できないか？...

「Talooカフェ」の思い... 「Talooカフェ」は、子どもを中心に多世代多様な人々が交流し共に成長する場、地域のつながりを深め子育てへの興味や関心を高める場を目指しています...

「Talooカフェ」の思い... 2024年4月より、「チャンネル地域プログラム」...



外国にルーツを持つ小学生の夏休みの宿題をサポートするカフェ参加者

「International Youth Peace Seminar 2024」に参加

8月4日(日)～8日(木)、東京YMCA高等学院の生徒6人と広島YMCAの国際プログラム「インターナショナルユースピースセミナー2024」に参加しました。このプログラムには、全国のYMCAおよび海外3カ国から集まった28人のユースとリーダー、スタッフなど、総勢50人が参加しました。

テーマは「絆」TOMODACHIで、さまざまな方向から平和について考え、仲間同士の距離を縮めていきました。最初は英語が苦手なメンバーが仲間に通訳してもらっていましたが、そのうち単語だけで自分の意思を伝えたり携帯アプリを駆使するようになり、緊張で張り詰めていた空気がどんどん笑い声に変わりました。グループに分かれてのディスカッションのテーマは難しく感じられましたが、言葉の壁を乗り越え真剣な表情で取り組んでいました。最終日の発表は、グループごとに工夫して歌や紙芝居、劇などの形式で自分たちの考えや成果を表現しました。

期間中、他の参加者との交流を通じて新しい絆を作ることができた一方で、高等学院6人の絆もとても深まり、日常の学校生活に戻っても以前とは違う表情を見せてくれています。

その生徒たちからの感想をお伝えしたいと思います。

- 多国籍の人たちと話すことに初めは緊張していましたが、想像していたより苦ではなく、楽しく過ごせました。原爆ドームや資料館、被爆者の証言を体験し、平和について話し合うことで、改めて戦争の恐ろしさを知ることができ、いつか世界中の人たちが平等にそして平和に過ごせる日がきますようにと感ずることができました。(みー)
- 5日間でいろいろな体験をし、平和について考えました。その中でも、グループワークで「戦争はお互いの倫理感のぶつけ合いなのかもね」と話していたことが印象に残りました。(しーちゃん)
- 平和記念式典に参列できたことは、私の人生にとって本当に意義があったと思います。被爆者のお話を聞いたり平和についてのグループワークをしたりすることも、平和について考える良い機会になりました。(りお)

(高等学院 吉岡由見子)



▲各グループの発表

◀「原爆の子の像」で全国から集まった千羽鶴を献納した



東京YMCA総主事 菅谷 淳

総主事カフェによるこそ。結婚記念日に、子どもたち3人からプレゼントが届きました。私たち夫婦の似顔絵とお酒でした。結婚して37年、振り返るとさまざまな出来事がありました。新婚時代はよく喧嘩をしました。価値観や考え方が違う他人が共に生活するので、衝突も当然

のことでした。しかし、川上のごつごつした石が、川下で流れるうちに美しい流線形の丸い石になるように、時間とともに私たちもお互いに丸くなり、喧嘩も少なくなりました。ただし、石は山から転がってきただけでは丸くなりません。大量の川の水があつてこそ、美しい形に磨かれるの

です。この水を人間に例えるなら、それは「愛」ではないかと思えます。新婚時代、妻には何でも開けっ放しにする癖がありました。食器を取り出すと棚の戸が開けっ放し、スプーンを取り出すと引き出しがそのま

ま、トイレから出るとドアが半開き。そのたびに私はイライラし、「ちゃんと閉めてよ！」と怒っていました。しかし、まったく直そうとせず、「これは自分に対する当てつけなのか？」と悪い方に考えてしまうこともありました。

仕事上の人間関係でも悩んでいた頃、ある名言に出会いました。それは、精神科医のエリック・バーンや心理学者のアルフレッド・アドラーが述べた「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉です。他人を自分の思い通りに変えようとするのは無駄な努力であり、その人のありのままを受け

入れる優しさと、苦手なことを補う強さを持つ自分に変わることが大切だと気づきました。大したことではありません。開けっ放しのドアや引き出し、扉が閉めればよいだけのことです。それに気づいたとき、真っ黒い雨雲が急に晴れたように気が楽になりました。ニヤニヤする私を妻は少し気味悪がっていました。

「他人を変えられない」という部分について、異論があるかもしれませんが、YMCAは教育団体であり、教育とはまさに人を変えていくことだからです。しかし、YMCAのプログラムをよく見ると、先生や指導者が生徒やメンバーを自分の思い通りに変えようとしているのではなく、その人の成長を支援しているだけであり、最終的にはその人自身が自分を変えているのです。そして、YMCAの現場には尽きることのない豊富な水、すなわち「愛」が溢れています。自分と未来をより良く変えていくことができるYMCAで働けることを、本当に幸せに思います。

第15回 YMCAキッズワールドカップin韓国 全員がゴール！言葉の壁を越えた友情も育む

「YMCAキッズワールドカップ」は、アジア各地のYMCAの子どもたちがソウルYMCAのユースセンターに集結し、サッカーを通して交流を深める大会です。施設は、宿泊施設の目の前にある人工芝のサッカー場に加え、ジム、プール、遊具、トランポリン、乗馬マシンまで揃っていて、サッカー少年には最高の環境です。

大会は2日にわたって行われました。日本からは東京YMCAと名古屋YMCAの合同低学年チーム、東京YMCAの高学年チームが参加しました。即席チームのため、初日はまだ呼吸が合わないこともありましたが、試合を重ねるごとに少しずつチームとして連携が取れるようになりました。試合に出ていない選手もチームメイトを大声で応援して、試合毎に団結力が強くなっていきました。そのチームワークのおかげで、2日間を通して全員がゴールを決めることができました。全員ゴールまであと一人となった時、チームが一つになって応援し、ゴールを決めた時には全員で喜びました。結果は、低学年合同チームが準優勝、高学年チームが3位でしたが、結果だけではない、もっと大切な

ものを学ぶことができたように思います。

また、ソウル、台北、香港のチームとも親睦を深め、他の国からドリンクの差し入れがあったり、写真撮影に誘われたりと、言葉の壁を越えた友情が生まれていました。別れる時、熱いハグを交わしながら涙を流しているところを見て、私も目頭が熱くなりました。この大会に参加しなければ味わうことができない体験でした。

子どもだけで渡航し、異国の文化に触れ、他国の子どもたちと交流するという体験は、このプログラムだからこそできることです。子どもは大人が想像するよりも逞しく、親元を離れても自ら頑張る底力を見せてくれました。5日間を通して全員がひと回り大きく成長できたと感じ、「可愛い子には旅をさせよ」とはこの事だだと思います。

弱音を吐かず全力で走り抜け、保護者と再会した時の第一声が「絶対来年も行く！」だった子どもたち。来年こそは優勝を目指して、たくさん子どもたちに参加していただけることを期待しています。

(TYIS 奥 和子)



チーム全員で戦い、フライングも続出した



言葉の壁を越えて友情を育んだ仲間たち